

造血幹細胞移植推進拠点病院事業

東北大学病院血液免疫科

張替秀郎

第49回造血幹細胞移植委員会

造血幹細胞移植推進拠点病院事業

事業の目的

造血幹細胞移植を必要としている患者に対して、

- **患者の病状に応じて、適切な時期に、適切な造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植・臍帯血移植）が実施できる体制を確保**するために、平成25年から各地域に造血幹細胞移植推進拠点病院を設置。
- **医療従事者の育成や骨髄等の早期採取に向けた各地域における連絡体制の強化を図る**ことで、どこの地域にいても、適切な診断に基づき造血幹細胞移植を受けることができる体制を整備し、**移植後患者に対しては、長期フォローアップ体制を確保し、移植後のQOLの向上を図る。**

事業の内容

※「人材育成」・「コーディネート支援」・「地域連携」それぞれの活動プロセス全体を評価できるようにそれぞれに複数のKPI指標を導入。さらにKPI指標のレビューを通じてPDCAサイクルを実施。

※ KPI=Key Performance Indicator ※HCTC=造血細胞移植コーディネーター



人材育成事業

- 広い地域での人材育成
⇒ そして地域へ還元
- 特にHCTCの育成を重視
- 学会と連携したセミナー・研修等の開催
- 人材育成の効率的な推進

造血幹細胞移植推進拠点病院



総合的で幅広いミッションを一貫的に遂行する地域の移植医療の中核組織

- 地域の移植施設間でのタイムリーな相談体制
- セカンドオピニオンや患者紹介の円滑な実施
- 非専門医・開業医も含めた長期フォロー体制
- 地域連携支援センターの設置



地域連携事業



コーディネート支援事業

- 特に非血縁者間におけるコーディネート期間短縮を重視。
- 骨髄バンクとの連携構築
- 末梢血幹細胞提供体制整備
- HCTCの活用と普及
- 連携病院への診療支援

- 拠点病院間の連携体制の構築
- 各地域の特色を生かした対策の構築
- コーディネート期間短縮・HCTC活用をはじめとした各種研究の積極的参加



拠点病院連絡会議

各都道府県等との連携

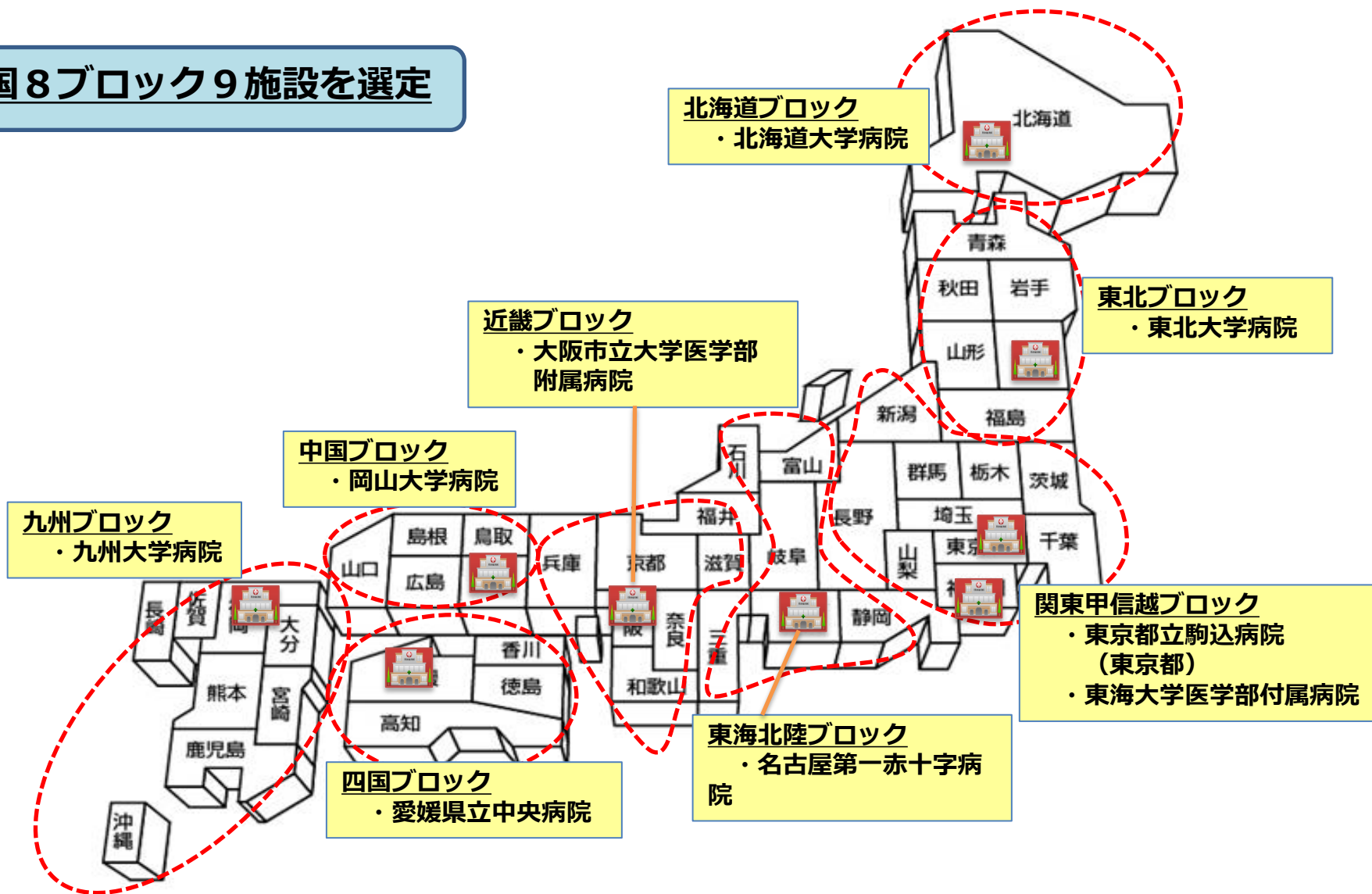
- 移植医療技術の均てん化
- コーディネート期間の短縮
- 各地域毎のネットワーク構築

安定的供給を達成

最終的に、造血幹細胞移植患者の生存率のさらなる向上へ

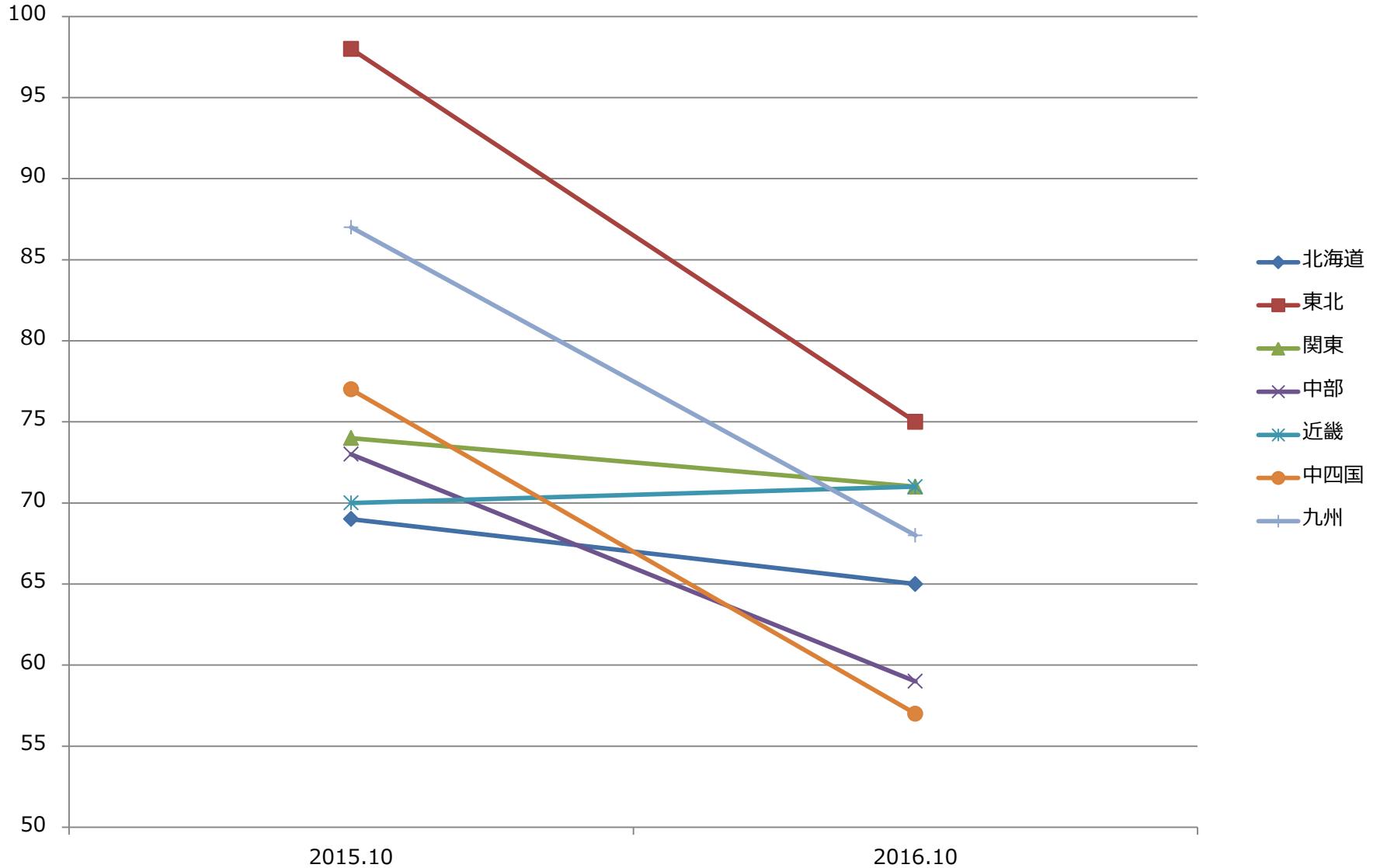
造血幹細胞移植推進拠点病院の現在の選定状況

全国8ブロック9施設を選定



コーディネーター支援事業

コーディネーター期間の推移<ドナー選定から採取まで>
(各地区の10~12月四半期の中央値)

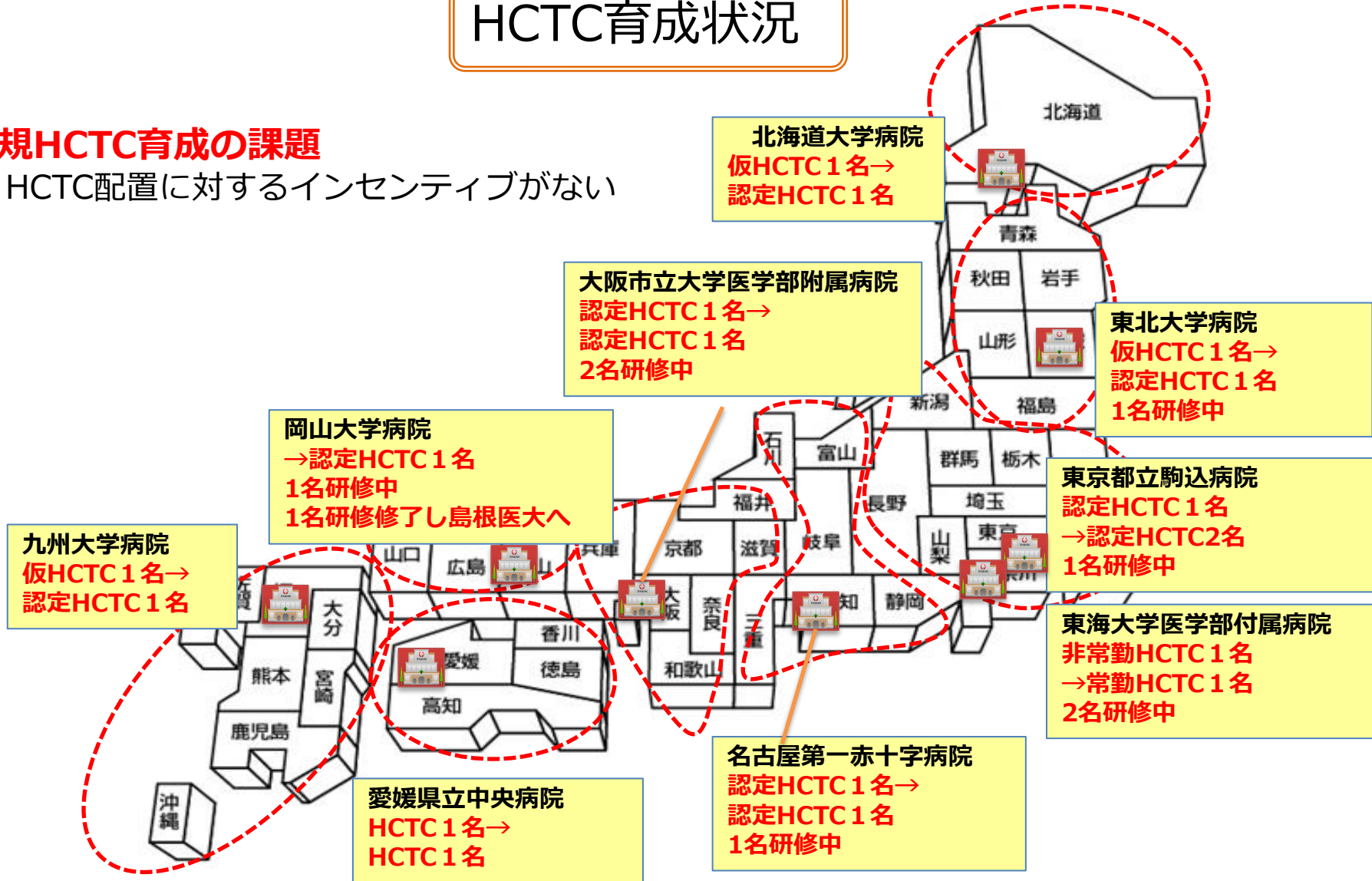


人材育成事業

HCTC育成状況

新規HCTC育成の課題

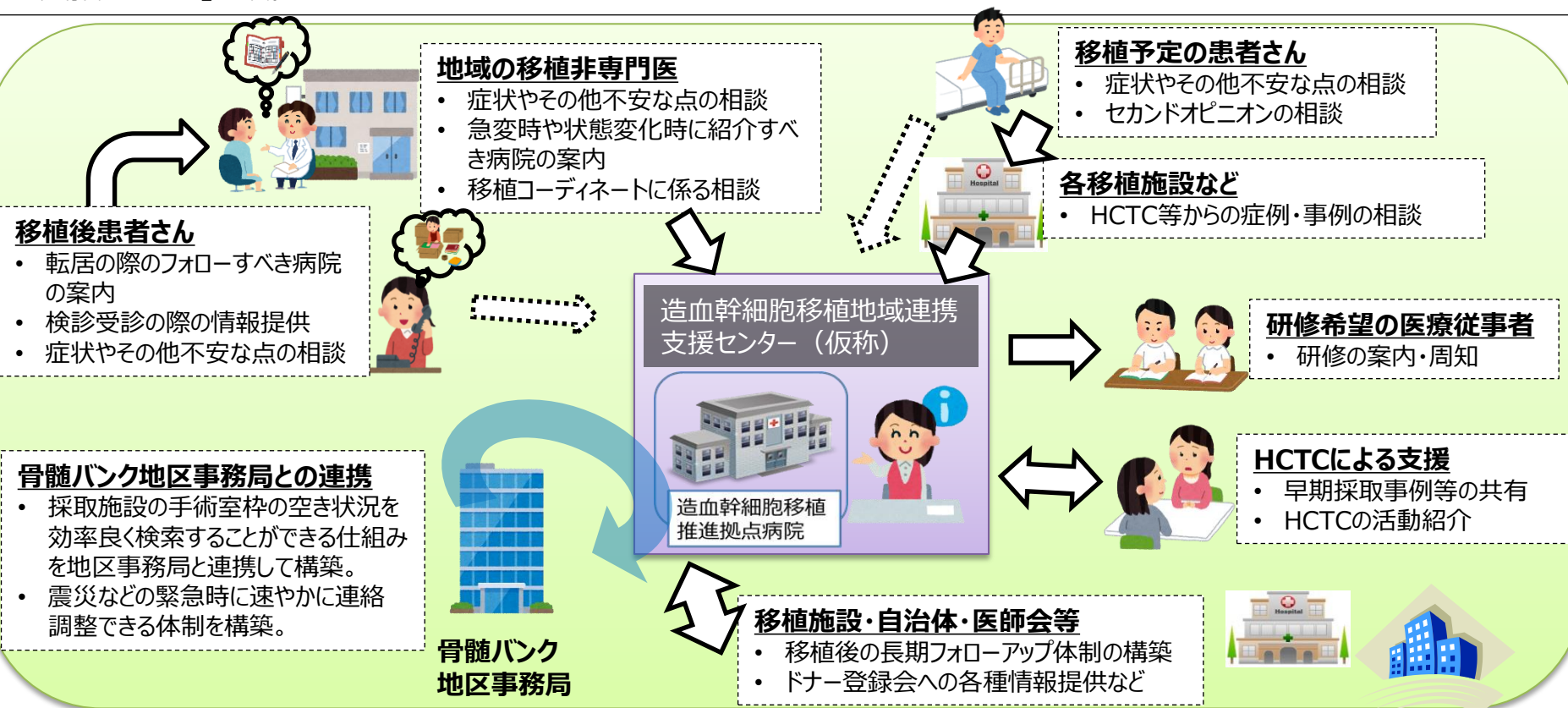
- HCTC配置に対するインセンティブがない



目的

造血幹細胞移植地域連携支援センターの運営体制構築（地域連携事業）

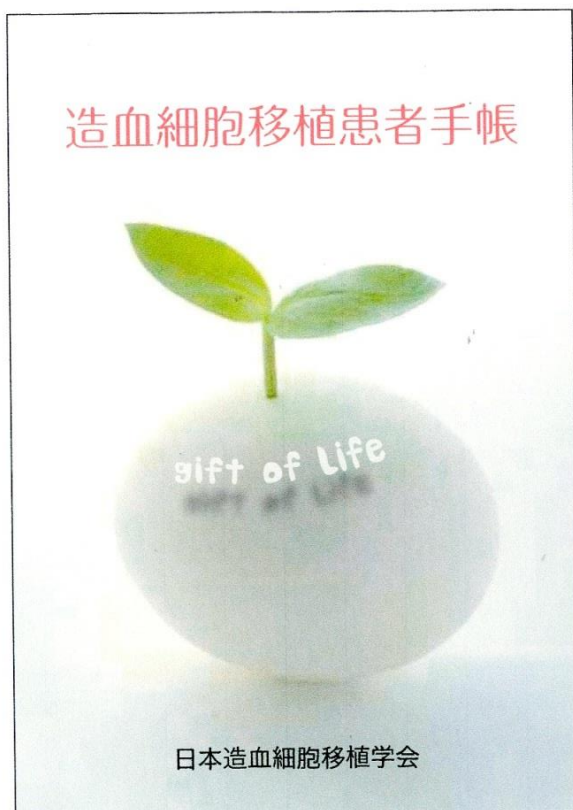
- 造血幹細胞移植を必要としている患者に対して、適切な時期に、適切な種類の移植が提供できる体制を構築するために、平成25年度より造血幹細胞移植推進拠点病院の設置を行い、平成27年度に全国8ブロック9施設の設置が完了した。
- 今後において、移植を必要とする患者が、どこの地域にいても、より安全に移植を受けることができ、移植後のQOL向上のための長期フォローアップ体制を構築など、各地域における造血幹細胞移植に関する総合的な支援を実施するために「地域連携支援センター」を設置する。



具体的にいうこと

1. 各地域において、造血幹細胞移植に関係する総合的支援を実施。
2. 造血幹細胞移植コーディネーター（HCTC）、地域の移植非専門医（開業医など）及び移植患者からの相談窓口。
3. 骨髄バンク地区事務局と連携し、骨髄採取の早期化を取り組むとともに、早期採取事例の共有など。
4. 造血細胞移植学会及び地域の医師会との連絡体制を強化することで、移植後の長期フォローアップ体制の構築。
5. 地方自治体実施する造血幹細胞移植に関する取り組み（ドナー登録会等）の側面的支援。

造血細胞移植患者手帳について (地域連携事業)



もくじ

はじめに	P2
移植施設の担当者へ	P3
患者さんへ(本手帳の使用について)	P4
かかりつけ医の先生方へ	P5
1 移植施設への連絡方法	P10
2 患者さんのプロフィール	P12
3 移植の記録	P14
移植施設とかかりつけ医の情報共有ツール	
4 健康診断の記録	P22
5 生活習慣病などの記録	P24
6 入院の記録	P26
7 移植施設から地域の かかりつけ医へ転院時の留意事項	P30
8 患者さんの最近の状況	P32
9 ワクチン接種について	P38
10 造血細胞移植後の 予防接種スケジュール(例)	P40
11 ワクチン接種の依頼	P42
12 ワクチン接種の記録	P44

経緯

- 統一した患者手帳の作成を目的として2015年に日本造血細胞移植学会に造血幹細胞移植患者手帳作成委員会が設置された。
- 2017年4月に「造血細胞移植患者手帳」第一版が完成し、日本造血細胞移植学会から、厚労省移植医療対策推進室へ提出された。
- 厚労省の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の一つとして、拠点病院から地域の移植施設及びその他の医療機関へ配布することとなった。

造血細胞移植後患者のフォロー体制 (地域連携事業)

造血幹細胞移植推進拠点病院

- 自施設の移植後患者のフォロー。
- 患者手帳の印刷と移植施設への配布。
- 移植後患者のフォローで注意すべき事項や患者手帳の利用方法について連携施設全体への周知、徹底をはかる。
- 地域連携支援センターの設置および相談窓口での対応。
- 地域の医療機関への研修会やセミナーの実施により患者手帳の使用可能な医療機関の増加を目指す。



患者手帳の配布

移植後患者の紹介

- ① 緊急時の相談
- ② 重篤な晚期合併症や二次癌の報告

拠点病院以外の移植施設

- 自施設の移植後患者のフォロー。
- 受け入れ可能な地域の医療機関を受診する患者への手帳配布。
- 自施設の移植後患者に関する地域の医療機関からの相談への対応。



移植後患者の紹介

- ① 緊急時の相談
- ② 重篤な晚期合併症や二次癌の報告

地域の医療機関 (かかりつけ医)

- 移植後患者のフォロー (晚期合併症や二次癌のスクリーニング)
- 移植医療機関とのやりとり



これまでの事業の成果

➤ コーディネート支援事業

- ・ 骨髄バンクと連携したコーディネート期間の短縮

➤ 人材育成事業

- ・ HCTCの育成
- ・ 医師を含む移植医療職に対する研修の実施
- ・ セミナー・講習会の開催によるレベルアップと多職種間の相互理解

➤ 地域連携事業

- ・ 地域連携支援センターの設置・患者手帳の作成による患者フォローアップ体制の確立
- ・ 移植病院/骨髄バンク間の連携強化によるドナー/患者紹介の円滑化

今後の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の方向性

